

平成29年度

修二小いじめ防止基本方針

京都市立修学院第二小学校

「修二 小いじめ防止基本方針」

1 「学校いじめ防止基本方針」の策定

(1) 目的

いじめは、いじめを受けた子どもの教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命または身体に重大な危険を生じさせるおそれのあるものである。

本方針は、子どもの尊厳を保持する目的の下、いじめ防止対策推進法（平成25年法律第71号）第13条ならびに京都市いじめの防止等に関する条例第10条に基づき、本校のいじめの防止等のための対策に関する基本的な方向、取組内容を策定するものである。

(2) 基本理念

いじめは、全ての児童に関する問題である。いじめの防止等の対策は、全ての児童が安心して学校生活を送り、様々な活動に取り組むことができるよう、学校の内外を問わず、いじめが行われなくなるようにすることを旨として行う。

また、全ての児童がいじめを行わず、いじめを認識しながら放置することが無いよう、いじめの防止等の対策は、いじめが、いじめられた児童の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であることについて、児童が十分に理解できるようにすることを旨とする。

加えて、いじめの防止等の対策は、いじめを受けた児童の生命・心身を保護することが特に重要であることを認識しつつ、国・地方公共団体・学校・地域住民・家庭・その他の関係者の連携の下、いじめの問題を克服することを目指して行う。

2 学校におけるいじめの防止等の対策のための組織

(1) いじめ対策委員会の設置

ア 委員会名 **修二いじめ対策委員会**

イ 構成員（職名又は校務分掌）

校長・教頭・教務主任・生徒指導主任・人権教育主任・総合育成支援教育主任・
養護教諭・教育相談主任・生徒指導担当教員・スクールカウンセラー

ウ 開催時期

定例委員会を月1回 開催（緊急対応の場合は、この限りではない。）

エ 委員会として取り組む内容

- ・基本方針に基づく取組や行動計画の確認等
- ・未然防止対策、早期発見に向けての対策等の検討
- ・各学年の児童の情報交換と課題の共有
- ・いじめに関わる情報に対する支援や指導及び保護者との連携対応の確認
- ・重大事態に対する判断と対応
- ・関係機関、専門機関との連携対応

※ 会議の回数・実施時期については、後述の「年間計画」に記載

(2) 教職員の資質向上（校内研修）

ア 基本的な考え方

「いじめ防止対策推進法」「京都市いじめの防止等に関する条例」「京都市いじめの防止取組指針」「修二いじめ対策委員会」を踏まえ、全教職員に対し、未然防止対策・早期発見に向けた対策・発覚時の適切な対応等に対し、校内研修の充実を図る。

イ 研修の時期・内容等

- ・6月、8月、10月、3月に行う生徒指導研修会時に実施する。
- ・内容は、「修二いじめ防止基本方針の徹底」「教職員のいじめに対する意識向上」「事例を基にした実践研修」「アンケート結果を基にした研修」

3 基本的施策

(1) 学校におけるいじめの未然防止

ア 授業改善

- ・教育課程指導計画（京都市スタンダード）に基づく授業計画を作成し、全ての児童がわかる喜びと学ぶ楽しさを実感できる授業を行う。
- ・学習規律の確立に努め、全ての児童が安心して学習に臨める環境づくりを行う。
- ・言語活動の充実とコミュニケーション能力の育成に重点を置いた学習形態を工夫する。
- ・全ての児童に習得すべき基礎・基本の学力の定着を図る。

イ 道徳教育

- ・道徳的実践力を育むため、教育活動全般を通して道徳教育の充実を図る。
- ・人権参観・休日参観で、全校の取組として、いじめは絶対に許されないことや命の大切さ、人権の大切さを題材とした授業を実施し、保護者に理解や協力を求める。

ウ 体験活動

- ・宿泊を伴う学習や校外での体験活動を通して仲間づくりを行う。
- ・学校行事（運動会や学習発表会）を通して人間関係づくりを行う。
- ・高齢者の方との交流や地域の方との協働体験を行い、道徳的価値の深まりを図る。

エ 児童が自主的に行う活動

- ・児童会活動や学級活動の活性化を図り、集団の一員としての自覚を深め、自己有用感を高める取組を推進する。
- ・12月の人権月間の際、「いじめ問題」等、人権標語・スローガンを作成する。
- ・修二っ子（縦割り活動）の交流を進め、望ましい人間関係の育成を図る。

オ 児童へのはたらきかけ

- ・図書室に「いじめ問題」をはじめ、人権に関する本のコーナーを設置する。
- ・「学校だより」にいじめや命に係わる内容や道徳「心のとびら」を設け啓発を行う。
- ・隔月1回の「ほほえみの日」の内容について学年、学級で話し合い実践する。

カ 保護者の啓発

- ・「いじめ防止対策推進法」「京都市いじめの防止等に関する条例」の趣旨や「京都市いじめの防止取組指針」「修二いじめ防止基本方針」の内容を周知し、いじめの防止や解消に、保護者による子どもの観察や声かけが重要であることを知らせ、理解と協力を得る。
- ・道徳や人権学習の参観授業への呼びかけをPTAの協力のもと進める。

キ ネットを通じて行われるいじめへの対応

- ・携帯電話やスマートフォン・携帯ゲーム機における危険性及び問題行動との関連について児童生徒への指導、地域や保護者への啓発に努める。
- ・ネットに関わる問題行動等の事例を伴う校内研修を行い、いじめとの関わりや対応策についての理解を深める。

ク その他

- ・学校評価アンケートを定期的に行い、結果を分析し、成果と課題を周知する。
- ・その際、P D C Aサイクルでの見直しも行う。

(2) いじめの早期発見のための措置

ア 情報の集約と情報の共有

- ・生徒指導主任は、日常的に問題行動の情報収集に努め、いじめに関わる情報については、些細なことや疑いも含め、「いじめ対策委員会」で情報を共有する。
- ・「いじめ対策委員会」で共有された情報は、全体一齊に、または学年主任等を通して全教職員で共有する。
- ・重大事態については、「いじめ対策委員会」を緊急に開き、対応等の検討の後、全教職員で情報等を共有する。

イ 児童生徒に対する定期的な調査

(ア) アンケートの実施

- ・いじめ記名式アンケートを6月、12月、2月に実施。尚、6月、12月の実施において、4～6年生については、クラスマネジメントシートを活用する。
- ・学校評価の児童によるアンケート（記名式）において、「いじめ」の項目を入れ、実態の把握に努める。

(イ) 教育相談の実施

- ・7月、12月、2月に、「教育相談週間」を設定し、相談活動を積極的に行う。
- ・その際、各担任は必ずアンケートの結果を把握し、児童の観察に努める。
- ・S Cとの連携による教育相談を必要に応じて進める。

ウ その他

- ・登校、休み時間、掃除中などの校内巡視による児童の見守り活動の実施。
- ・全教職員による「いじめを見逃さない」体制づくりの構築
- ・「修二っ子タイム」（一週間のふりかえりシート）の活用

4 いじめが起こったときの措置

(1) 基本的な考え方

いじめの発見や報告を受けたときは、速やかに「いじめ対策委員会」で情報を共有し、今後の対応等について検討する。その際、「いじめ防止対策推進法」等を踏まえ、いじめの有無の確認について、被害児童の支援や加害児童への指導、周りの児童の状況把握、教育委員会はじめ関係機関や専門機関との連携、保護者への連絡や対応等について努めるとともに、解消・改善及び再発防止に向けた取組を進める。

(2) いじめが発覚したときの対応

- ・いじめの発見や報告（些細なことや疑いを含め）があった場合は、速やかに「いじめ対策委員会」で情報を共有する。
- ・「いじめ対策委員会」を中心に、いじめの事実の有無の確認を行う。
- ・周りの児童への関わりを把握する。
- ・被害児童への支援、加害児童への指導体制をとる。
- ・被害及び加害児童の保護者に連絡するとともに、京都市教育委員会に報告する。
- ・被害児童及び保護者への支援を行う。
- ・加害児童への指導及び保護者への助言を行う。
- ・周りにいた児童に対しても自分の問題として捉えさせる。必要に応じて学級集団への指導も行い再発を防ぐ。
- ・事案によっては、警察にも連絡を入れる。

5 重大事態への対処

(1) 基本的な考え方

重大事態への対処については、いじめ防止対策推進法を踏まえ、京都市教育委員会を通じて重大事態が発生した旨を市長に報告すると共に、その事態への対処及び同種の事態の発生を防止するため、京都市教育委員会の指導及び支援を得つつ、本校が調査主体となる場合には、本校の下に組織を設け、質問票の使用その他の適切な方法により事実関係を明確にするための調査を行う。また、いじめを受けた児童及びその保護者に調査に係わる事実関係等その他の必要な情報を適切に提供する。

(2) 重大事態が発覚したときの対応

重大事態が発生した場合は、速やかに京都市教育委員会に報告し、調査の主体等についての協議を行う。重大事態として取り扱う案件は、「生命・心身又は財産に重大な被害が生じた疑いのあるとき」「相当の期間、学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあるとき」が主なものであるが、児童や保護者から、いじめられて重大事態に至ったという申し出があったときも、重大事態の疑いのあるものとして対応する。本校が調査の主体となる場合は、本校の下に組織を設け、「事実関係を明確にするための調査」「必要に応じた適切な保護者への情報提供」「京都市教育委員会への調査結果の報告」「調査結果を踏まえた適切な措置」「同種の事態発生の防止に向けた取組の推進」等を速やかに行う。

また、京都市教育委員会が調査の主体になった場合は、京都市教育委員会の指示のもと、資料の提出など、調査への協力をする。

6 関係機関との連携

ア 地域・家庭との連携の推進に向けて

- ・修二小P T Aとの連携のもと、いじめ問題や「修二小いじめ防止基本方針」に対する理解を深める家庭教育学級や地生連での研修会を設定する。
- ・平素からスクールカウンセラー及びスクールサポーターとの連携を密にしておく。

イ 関係機関との連携の推進に向けて

- ・いじめの事案によっては、警察署少年係との連携を密にし、被害児童の身の安全を最優先させると共に、児童相談所との連携も図り、加害児童・被害児童の精神的ケアを図る。

7 年間計画（予定）

いじめの防止等のための取組を下表のスケジュールにより実施する。ただし、年度途中に計画の見直しを行う場合がある。

月	対策会議や校内研修等	未然防止に向けた取組や行事等	アンケートの実施や教育相談週間等	保護者への啓発等
4	生徒指導研修会 「いじめ防止基本方針」共通理解 生徒指導委員会			入学式後の保護者説明 学級懇談会 家庭訪問
5	生徒指導委員会	ほほえみの日		家庭訪問 休日参観
6	生徒指導委員会 生徒指導研修会 第1回 学級経営の交流	6年修学旅行 修二っ子 (縦割り活動)	第1回いじめに関するアンケート実施 児童による学校評価 第1回クラスマネジメントシート実施	
7	生徒指導委員会	ほほえみの日 修二っ子 (縦割り活動) 5年花背山の家	生活習慣アンケート 教育相談	個人懇談会
8	生徒指導委員会 生徒指導研修会 「教職員のいじめに対する意識向上の研修」			
9	生徒指導委員会	ほほえみの日 4年みさきの家		休日参観
10	生徒指導委員会 生徒指導研修会 第2回 学級経営の交流	修二っ子 (縦割り活動) 運動会		
11	生徒指導委員会	ほほえみの日 学習発表会 修二っ子 (縦割り活動)		
12	生徒指導委員会	人権月間取組 修二っ子 (縦割り活動)	第2回いじめに関するアンケート実施 児童による学校評価 第2回クラスマネジメントシート実施	人権参観懇談会 個人懇談会

			メントシート実施 教育相談	
1	生徒指導委員会	あいさつ月間 ほほえみの日		
2	生徒指導委員会	修二っ子 (縦割り活動)	第3回いじめに関するアンケート実施 教育相談	学級懇談会 新1年入学説明会
3	生徒指導委員会	ほほえみの日 修二っ子 (縦割り活動)		